

平成 26 年 3 月 18 日 君津農業事務所 改良普及課
電 話：0438-23-0299 FAX：0438-23-6698
ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

1 降雪被害のあった地域の水稲育苗管理について

君津地域では、2月8日～16日の積雪により水稲育苗ハウス等の倒壊が多く発生しています。これから、水稲の育苗時期を迎えることから、計画的な育苗準備を進めましょう。

しかし、通常の育苗開始までにハウスの新設・修理が難しい等の場合は以下の対応を行いましょう。

(1) ハウスの損傷を確認し、自家育苗か苗購入するか判断します。

(2) 苗購入の場合は、農協や苗販売農家、受託組織に早めに相談します。

(3) ハウスを修復後に自家育苗する場合

ア ハウスの建て替え・修理が可能な場合は、完成時期を目安に育苗計画を立てます。

イ 予定日から逆算して種子消毒、浸種を開始します。

ウ 例年と異なる時期の育苗になる場合は温度管理に注意します（表参照）。

・種子消毒の液温は10～15℃に保ちます。

・浸種は水温10℃～15℃で積算100℃になるよう行います。水の交換は浸種開始後3日目から毎日行い、十分吸水させます。

・浸種場所は直射日光が当たる場所やハウス内では水温が上がり、浸種中に発芽する籽があるので、温度変化の少ない場所にするか覆いをします。

・育苗時期が遅くなると気温が上昇しますが、催芽は30℃、出芽期は30℃以下、緑化期～硬化期は25℃以下で管理します。

・ハウス等でビニールが新しい場合は、温度上昇が大きいので特に注意します。

(4) 種子予措を始めた後で、播種作業を延期する場合の種子籽の扱い

・種子消毒中の場合

所定の消毒作業後、陰干しして浸種まで日陰に保管します。

・浸種早期（薬液浸漬含めて3日以内）の場合

早く引き上げ、温度の上昇しない場所に広げて陰干しします。ネット袋に入れて、浸漬再開まで保管します。

・催芽近くに至っている場合

籽が乾燥しないよう脱水し、冷暗所（約5℃）で保存します。この場合、保存期間が長くなるほどカビが生えやすくなり、発芽率も低下します。

(5) ハウスの修復が見込めない場合は、トンネルで育苗します。

ア トンネルでの育苗は、ハウスに比べて日中は高温に、夜間は低温になりやすいので、

- 温度管理に十分注意します。温度管理はハウスでの育苗と同様に行います（表参照）。
- ・催芽を必ず行い、種もみをハト胸状態に揃えます。
- ・出芽はなるべく加温して行い、無加温出芽の場合は出芽温度を確保できる時期まで遅らせます。
- ・換気は、朝はトンネルを早く開け、夕方は早く閉めるようにします。
- ・晩霜や温度の急激な低下が予想される場合は、二重被覆等で保温します。

イ トンネルを設置する場所をなるべく均平に整地します。

ウ 高温では苗の「細菌病」の発生が、低温では出芽までに日数がかかることにより「カビ」の発生が懸念されます。このため、出芽から緑化期までの温度管理に注意するとともに、もみ枯細菌病及び苗立枯病の薬剤防除（播種時にフタバロンA粉剤を混和した育苗培土を覆土する）を必ず実施します。

◎トンネル育苗は使う資材により管理が多少違ってきます。初めてトンネル育苗を行う場合は君津農業事務所改良普及課へ御相談ください。

（6）田植えが例年より遅くなる場合の対処

コシヒカリの植え付けが5月中～下旬まで遅れた場合は、倒伏を回避し、玄米品質を維持するため、基肥及び穂肥の窒素施用量を4月中～下旬植えの50%に減量します。倒伏を避けるため、収量目標を8俵程度とし、栽植密度は15.5～16.5株/m²とします。

表 播種後の温度管理

	出 芽		緑 化 (稚苗)	硬 化
	加温出芽	無加温出芽		
日数の目安	2日	5日前後	2～4日	15～20日
目標温度	昼	30℃	20～30℃	5～25℃
	夜	30℃	10～20℃	

2 漏生イネ発生防止のお願い

昨年、千葉県採種ほ産（長生）の水稻種子が混種する事故があり、管内においても異品種の混入がみられました。問題の種子を利用された農家や農協関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。心よりお詫び申し上げます。

混種のあった田んぼだけでなく、作付けの品種を変更した場合には、収穫以降の「こぼれ粳」や「ひこばえ」に起因する「漏生イネ」の発生が考えられます。

そこで、次の対策により漏生イネの発生を未然に防いでいただくよう、御理解・御協力をお願いいたします。

ア 田植え前の代かきは7日くらいの間隔をあけて2回ていねいに行います。

イ 代かき後又は田植後に「プレチラクロール」の成分が含まれる初期剤を使用します。

例) エリジャン乳剤、ユニハーブフロアブル、農将軍フロアブル

注意) 上記除草剤の使用時期「植代後～移植7日前まで」又は「移植直後～ノビエ1葉期」

ウ 早植えは避け、気温や水温が上がる4月下旬以降に田植えをします。

エ 7月ごろ、極端に早く又は遅く出穂する異品種株・異型株は抜き取りを行います。